

米軍辺野古飛行場建設に向けた強行調査の中止と計画断念を求める緊急声明

9月25日、沖縄県内の有識者やジャーナリストら25人が、日米両政府に辺野古新基地建設中止を求める緊急声明を発表した。同日、新崎盛暉沖縄大名誉教授、宮里政玄沖縄対外問題研究会顧問、我部政明琉球大教授らが沖縄県庁で記者会見を開き、声明文を発表した。ここに、その全文を紹介する。

安倍晋三首相宛て
バラク・オバマ米大統領宛て

米軍辺野古飛行場建設に向けた強行調査を直ちに中止し、建設計画を断念せよ 2014年9月25日
辺野古の海兵隊新航空基地の建設は沖縄を恒久基地化することにつながり、私たちは認めるわけにはいかない。

沖縄住民は、日本本土や米国に住む人々と同じように公平な扱いを受ける権利がある。にもかかわらず、日米両政府が長年にわたり民意に反する差別と犠牲を強要してきた。現在でも、住民の抵抗を強権で押さえつけ、沖縄に軍事基地を集中させるという日本国憲法や米国の独立宣言の精神にも反することを行っている。言語に絶する悲哀を人類に与えた二つの大戦の経験から、戦争の惨害から将来の世帯を救い、基本的人権と人間の尊厳および価値尊重を決意した国際連合憲章にもそぐわない行為である。

辺野古での埋め立ては、ジュゴンなど希少野生生物の生息する海を破壊するだけでなく、民主主義を埋め殺しにするような愚かな行為である。米軍基地建設のために、沖縄のジュゴンの生存を脅かし、生物多様性の豊かなヤンバル（沖縄島北部をさす）の環境を破壊していることが国際的に広まり、米国の信用はおとしめられることになる。

日本政府は、尖閣諸島をめぐる中国との領有権をめぐる対立を利用して、海兵隊が中国に対する「抑止力」になっていると、MV-22オスプレイが有用であるかのように宣伝している。いずれも、軍事的にも外交的にも根拠のない主張である。米政府は、沖縄返還交渉以来、一貫して尖閣の領有権については中立の立場をとってきている。国防費の削減が進むなかで、海兵隊も組織を維持するために「尖閣防衛」をほのめかすことで「グアム・沖縄米軍再編計画」などで日本政府から予算を引き出そうとしている。

米軍の抑止力が効力をもつのは、沖縄に米海兵隊基地があるからではない。米国が日本の安全に関する意志と能力があるかどうかである。そして、抑止対象となる国が、それらをどのように評価するのかにかかっている。万一、尖閣諸島と周辺において日中間の武力衝突が起きれば、これらの防衛は日本の責務であり、米軍は空と海から支援を行うことになる。米政府は、海兵隊員を島へ上陸させることに何らの利益を見いだしていない。もしこの地域で武力衝突が起きれば、日米中のみならず世界の経済と安全に多大の打撃を与える。少なくともこれら三国は、予期しない武力衝突を回避できる協議メカニズムを構築すべきだ。まず、日中間で深まる不信と対立を緩和して、平和の海にするための外交努力が台湾を含め日中双方に求められる。

米空軍嘉手納飛行場・弾薬庫だけで、県外主要6米軍基地（横田、厚木、三沢、横須賀、佐世保、岩国）の合計面積の1.7倍ある。在沖海兵隊基地は、嘉手納の3倍以上の面積を占める。このような「過重な基地負担」が、都道府県面積第44位でしかない沖縄県に集中しているのである。海兵隊が沖縄から撤退したとき初めて沖縄に住む人々は「基地負担」がいくぶんか軽減されたと感じるであろう。

私たちは日米両政府に対し、以下、要求する。

- (1) 日米両政府は名護市辺野古の米海兵隊新航空基地建設計画に向けた調査を直ちに中止、計画を断念するよう求める。
- (2) 沖縄県内への移設条件なしに普天間飛行場を即時閉鎖し、早期返還せよ。
- (3) 日本政府は奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録に向けて辺野古・大浦湾、高江など沖縄の北部圏域の自然環境と「希少種の保護」対策に取り組むように求める。日米両政府は、辺野古・大浦湾・高江の希少生物保護に関する国際自然保護連合（IUCN）の度重なる勧告に耳を傾けよ。

東江平之、新垣修、新崎盛暉、大城貴代子、大城立裕、加藤彰彦、我部政明、桜井国俊、佐藤学、高里鈴代、高嶺朝一、仲地博、比嘉辰博、比嘉幹郎、星野英一、真栄里泰山、三木健、宮里昭也、宮里政玄、宮城公子、宮田裕、屋富祖健樹、屋富祖昌子、屋良朝博、由井晶子（五十音順）

上記を代表して

宮里政玄 / 新崎盛暉 / 我部政明

沖縄・意見広告運動ニュース

振替口座 / 加入者名:意見広告 2014.10.15 (WED)
口座番号:00920-3-281870
東京:03(6382)6537 FAX:03(6382)6538 大阪:06(6328)5677 FAX:06(6328)5777

■東京連絡先 〒164-0001 東京都中野区中野2-23-4 ニューグリーンビル301号 協同センター東京 気付
●電話:03(6382)6537 ●FAX:03(6382)6538
■関西連絡先 〒533-0032 大阪市東淀川区淡路3-6-31 協同会館アソシエ内
●電話:06(6328)5677 ●FAX:06(6328)5777

3800人が県庁包囲! 止めよう新基地建設! 10・9県庁包囲県民大行動



10月9日、県庁前に集まり、一斉にプラカードを掲げて抗議

辺野古に基地は絶対造らせない!

普天間飛行場移設にともなって名護市辺野古で強行されようとしている新基地建設をやめさせようと、10月9日、「10・9県庁包囲県民大行動」が開催され、平日にもかかわらず沖縄県庁前に3800人の人々が集まりました。会場となった県民広場には、学生や主婦、高齢者、家族連れなどのほか、昼休みを利用してやってきたというスーツ姿の人も見られ、名護市辺野古で新基地建設に抗議する住民も、米軍ヘリパッド建設に反対している東村高江の住民も参加しました。

参加者は基地建設をなんとしても止めたいとの意思を示そうと、人間の鎖で県庁庁舎を完全に包囲。手に手に「辺野古新基地NO」と書かれた青いプラカードを掲げ、「子どものために埋立てをやめよう!」「戦争につながる一切を拒否する!」「県民の意思で絶対造らせない!」と、決して諦めない意思を示しました。

7月1日から始まった辺野古新基地建設に対して、これに反対する「オール沖縄」の再結集で『建白書』実現をめざす「島ぐるみ会議」が7月27日に多数の参加者によって結成されて以来、これを母体とする実行委員会による集会は辺野古現地で8月23日の3600人、9月20日の5500人の集会を開き、今回は第3弾の行動。今後も決して諦めることなく、ひるむことなく基地建設を断念させるまで突き進んでゆく、県民の意志のみなざる集会でした。

防衛省前でも300人が抗議の声

「沖縄と連帯してたたかうぞ!」——東京では10月9日午後6時から市ヶ谷の防衛省前で沖縄に連帯して新基地建設に抗議する緊急集会が行われました。主催は沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック。労組や市民



300人が防衛省に向けて抗議の声を挙げました。また防衛省職員に申し入れ書を手渡しました。

（お知らせ）

11月21日夕に大阪・協同会館アソシエ3階にて、**関西集会**を開催します。(講演:伊波洋一全国世話人「沖縄知事選の結果と今後の闘い」)

この集会に先立って、11月21日(金)午後**一沖縄意見広告運動の第6期全国世話人会議**を開催し、沖縄県知事選挙の結果を受けて、来年5-6月予定の第6期意見広告方針について決めます。

この会議を受けて、全国の賛同者に「第6期広告と行動の具体的計画」を郵送にてご提案する予定です。



【写真】8月23日、ゲート前に3600人が集まった

ヘリ基地反対協のアピールに応じて 辺野古現地行動報告その1 (報告者 M)

7月2日のヘリ基地反対協議会の「緊急アピール」を受けて、沖縄意見広告運動は緊急に代表世話人と東京・関西両事務局で検討し、第6期の最初の行動として、このアピールに応じて両事務局スタッフを軸に、長期・短期まじえて現地派遣団を送ることを決めた。また関西でこの運動を支え全組織挙げて取り組んでいる賛同団体の労組・関生支部も現地派遣を決めた。こうして7月22日、沖縄意見広告事務局と関生支部の現地派遣第1陣が、7月2日より開始されている沖縄辺野古現地の闘いの現場に出発した。

辺野古現地では、海底ボーリング調査工事強行のために市民・県民の抗議行動を排除する目的で拡大された辺野古沿岸「臨時立ち入り制限区域」を示すブイの設置を阻止できるかどうか、今夏最初の海底ボーリング調査工事阻止闘争の攻防の要となっている。

7月21日の地元紙によれば、すでにブイは人々が寝静まっている深夜、闇討ちで基地内に運び込まれたとのことだ。この不意打ちにキャンプ・シュワブゲート前には、22日、110名を超える人々が集まり、抗議の声を挙げている。しかし、ブイを海上に設置するには「トンブロック」と呼ばれる1個1トン以上のコンクリートブロックをアンカーとして沈め、そこにブイをしっかりと固定する必要がある。現場ゲート前で指揮をとっている山城博治沖縄平和センター議長は「他の資材は運び込まれてもいい。トンブロックだけは車の下に潜り込んででも阻止する」と言っている。防衛局はこのブイ設置工事着工を7月28日と発表した。

■25日「ここで何が行われているか、全国に広めよう」

朝からゲート前の道路の真ん中に山城さんが座り込み抗議をしていた。だまし討ちがあったからだ。抜き打ち搬入が行われるのではないかと朝7時から動員されていたが、沖縄防衛局はその裏をかくて6時過ぎに何台ものトレーラーで資材を運び込んだそう。抗議団も続々と集まり、40人ほどで朝の集会が始まった。安次富さんが発言する。「警察は米軍・防衛局と一体となっている。これは民事不介入の原則を破るものだ。いまここで何が行われているかを全国に広めよう！」ゲート前には連日国会議員や県会議員たちもく

辺野古に基地はいらない

—海底ボーリング調査阻止へ、沖縄意見広告運動が現地へ派遣—

る。この日は糸数慶子さんが参加。山城さんは「道路の途中で検問が行われている、これはカヌーに乗り込むのを遅らせるのが目的だろう、ひるまず、屈せず闘い続けよう」と訴えた。集会后、基地ゲート前をぐるぐる回りながらデモ。

■27日「島ぐるみ会議」結成集会に参加

この日、みんなで宜野湾市の市民会館へ。会場内、ロビーにも人が大勢詰めかけていて、入り口がふさがり、中に入れなかった。大勢がロビーにある大きなテレビの前で中の様子を見ていた。参加者数2000人以上。

■不法な鉄板敷設工事に臨時記者会見

その夜8時15分、緊急の呼び出し。第1ゲート前の道路が100メートルほどの範囲にわたって片側車線が完全に道路工事中フェンスで遮断された向こうで鉄板が敷設されている。山城さん、安次富さんと、あとから市民も駆けつけた。

「道路工事は、事前に告示するものだ。このような突然の工事は違法だ。我々に対して道路交通法違反を言うなら、この大規模な国家の犯罪を見逃すのはなぜだ！」警備の警官も、警備会社職員も誰も答えようとはしない。

臨時記者会見を開き、防衛局と警察の横暴を糾弾。

■28日、危険な鉄板の本当の目的が判明

昨日の鉄板工事の本当の目的がわかった。敷かれた鉄板は三角形のギザギザとなっていて警察ともみあつてころんだりすれば大変危ない。つまり抗議行動をするな、という防衛局の脅しだ。しかもその鉄板を敷いた場所は基地の外側の公道の上で、防衛局が市民の公共物を私有化しているのだ。路上抗議行動の後、午後には人の数がどんどん増え、およそ百数十人となった。今日は糸数さん赤嶺さんのほか社民党照屋寛徳さんらもかけつけてきた。

■29日、海上にブイ設置できず

朝からゲート前にはトラックが現れ、抗議の座り込みと機動隊のごぼう抜き攻防戦が繰り広げられた。

10時35分、朗報が飛び込んできた。沖縄に台風が接近し、波が高くなっているため、海上保安庁は闇にまぎれて作ったゴムポート発着のための浮き桟橋を解体し、ゴムポートも陸に引き上げたとの事。そればかりか、本土から派遣されていた20隻の巡視船が一斉に沖縄を離れて北上中との事。これで台風が過ぎ去るまで海での攻防はなくなる。

夕方、むくむくとわき上がる入道雲の下から大粒の雨が降ってきた。雨はすぐにやみ、空には大きな虹が出ていた。「希望はかならず叶うという約束の虹だ」誰かが言った。

辺野古現地行動報告その2 (報告者 H)

■8月4日、仮設ゲート内は「占有許可外」と判明

朝から生コンミキサー車やダンプが続々と搬入。我々は出入りする車両の前に立つ。「工事を中止しろ！」「埋め立て止める！」そのたびに警備のガードマンと警察が我々を排除する。しかし我々は排除されても排除されても抵抗する。

午後、「殺人鉄板」の撤去を求めて代表団が北部土木事務所へ。追及の結果、沖縄防衛局は鉄板設置・占有の許可は得ているが、仮設のゲートで遮断している歩道の一部は「占有許可外」と判明。「許可されていないなら不法占拠だろ！」憤慨した市民たちが実力で歩道に入り不法占拠されていた歩道を取り戻した！「勝利したぞ！」みんなで確認し合った。

■8月6日、鉄管やブロックも無許可と判明

沖縄総合事務所代表団が交渉を行い、歩道を封鎖している仮設ゲートの鉄管やトンブロック(1トン以上の重さのコンクリートブロック)も「許可外」とであると判明！防衛局は無許可の構築物をつぎつぎと設置していたのだ！

那覇市では「オナガ雄志知事を実現する同志会」主催の会議が開かれ、財界を中心に1450人が集まった。



■8月11日、海保、海上に浮き桟橋を設置

沖縄防衛局は作業を約2週間ぶりに再開。朝から海域で浮き桟橋の設置作業が開始された。市民の方も警戒船を出したが、海保のゴムポート8艇以上に取り囲まれ、現場に近づくことができない。お昼には浮き桟橋が設置された。

第1ゲート前では200名を超える人々が集まった。

■8月15日、「安全」を理由に暴力をふるう海保

カヌーが設置ポイントに近付くと、海保のゴムポートと海保指揮船がカヌーを取り囲む。全カヌーが海保に拘束され、辺野古の浜や漁港まで連行された。この際、こちら側のゴムポートを操縦していた男性が海保に拘束され、けがを負った。制限区域外にもかかわらず「安全確保」を理由に暴力で抗議活動を抑圧するとは何事か！12名が拘束され、その間にブイ・フロート設置が強行された。那覇市議会はこれに抗議する意見書提出を検討することになった。



【写真】市民に暴力を振るう海上保安庁職員(沖縄タイムスより)

■8月16日、スパット台船にボーリング機設置

沖縄防衛局はボーリング調査に向けて掘削作業の足場として使用するスパット台船にボーリング機を設置するなど準備作業を行った。第一ゲート前にはこの日も多数の市民が集結。一時、300名を超える人々が集まり、「海保の弾圧を許さない」「県民は怒っているぞ」と抗議の声を上げた。

■8月18日、掘削開始

ついに掘削が開始された。防衛局は11月30日までに21地点でボーリング調査をやりと発表している。

■8月22日、海保の暴力に抗議

21日、海上で抗議していた市民が海保職員に首をつかまれ、全治10日の頸椎捻挫。市民団体などが第11管区海上保安本部を訪れこれに抗議した。告訴も検討中とのこと。

■8月23日、基地ゲート前に3600人

「島ぐるみ会議」の呼びかけで島内各地からバスに分乗してゲート前に集まった市民の数は3600人となった。バスの数が足りず、来れなかった人も1000人を超えた。キャンプシュワブの第1ゲートと、そこから200メートルほど離れた新ゲートとを含む付近一帯の両側歩道が数百メートルにわたって抗議の市民に埋めつくされた。新聞世論調査でも工事反対が80%、安倍内閣への不支持も81%。この日の結集は人々の怒りのすさまじさを現すものだ。



【写真】多数の巡視船や警備艇で暴力的に威圧する海上保安庁

■8月29日国連委が政府に勧告

29日、国連人種差別撤廃委員会は沖縄の人々を「先住民」と認定し、琉球・沖縄の歴史や言語などを尊重し住民の権利を保障すべきだと日本政府に勧告した。